

空梅雨なのでしょうか？雨があまり降りません。

職員教育の一つとして、米国の病院研修に行ってきました。同じ病院グループの人たちと総勢、何と49人！の大部隊です。ニュージャージー州のバリーホスピタル、オハイオ州のクリーブランドクリニックが主な研修病院でした。我々のグループでは、20数年前より積極的に海外研修を行っており、米国の最先端の医療を見学し、良いものはどんどん導入し、逆に日本に合わないもの、また日本のほうが優れているものをたくさん発見しています。医療機器は残念ながら米国のほうが断然進んでおり、当院で使用している最新の医療機器のほとんどが米国製ですし、これは日本全国同様で、メイドインジャパンはほとんどが小さな機器のみです。最新的大型機器は値段も大変高価であり、保険診療点数が抑制される中、患者さんにとって有用であっても、導入するか否か米国の病院にとっても日本の病院にとっても大変頭を悩ますところであります。しかし最終的には患者さんにとって最も必要な最新機器を導入することこそがポイントのようです。

現在、医療内容は日本も米国もほとんど変わりませんが、日本より断然進んでいるのが、まず病院経営のために何を為すべきかという視点から医療を行っているということです。つまり患者さんをきちんと診療し質の高い医療を提供すること、患者さんやその家族のかたに十分納得するまで時間を掛けて説明すること、アメニティの高い病院を造り、患者さんが家にいるような快適な入院生活を送ってもらうこと。そういうレベルで医療を捉え、患者さんが十分満足し、その結果病院の評価が上がり、患者さんが次の患者さんを紹介するような病院をつくるということです。これまで日本では公的病院が中心となって医療が進んできましたが、米国では早くから民間主導で患者さんのために何をすれば良いかという観点から進んできた結果だと思います。その副産物として職員の接遇面での向上が見込まれます。

今回私は、他の研修グループとは別に、最新のPET/CTを見学してきました。関連の福岡PET画像診断クリニックすでに導入しましたが、米国ではさらに進化したPET/CTが実用化されており、診断能力の向上が見られます。我々は常に向上心を持つだけでなく、新しいものに対しても敏感に嗅覚を利かさないとなりません。

第17章。

